

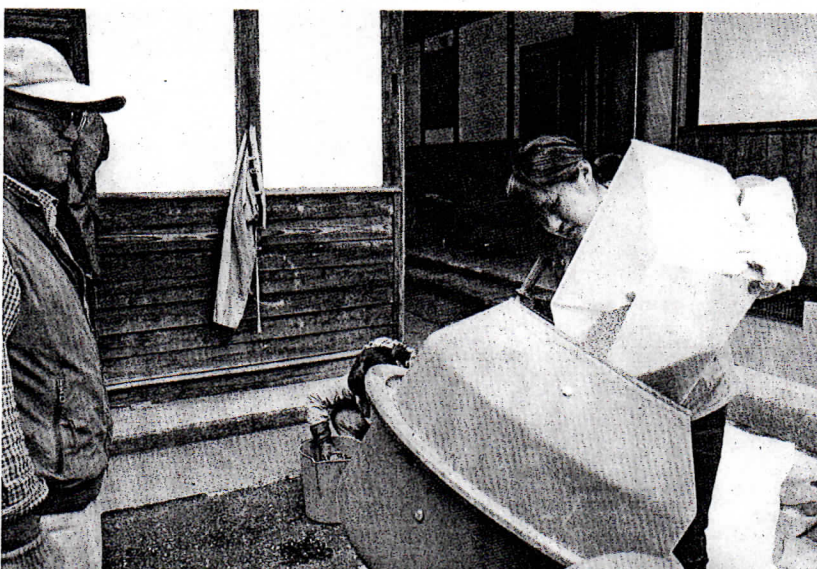
若葉、農村で奮闘

東京都在住で日本社会事業大社会福祉学部4年の森文香さん(21)は、NPO法人地球緑化センターの「若葉のふるさと協力隊」として一関市大東町大原の下内野地区を訪れている。4日までの期間、農作業や農村生活を体験。豊かな自然環境の中で自らの将来を見詰め、意欲的に活動している。

森さんは仙台市出身。農業や農的な暮らし、地域づくりへの関心から協力隊に応募し、9月30日から4泊5日の日程で一関に派遣された。

1年間の農村体験をする同法人の「緑のふるさと協力隊」として4月から同地区で暮らす西田彩音さん(23)や、下内野自治会(勝部欣一会長)など地元を受け入れ支援で地区民との交流や各種体験を行っている。

交流と協力 下内野地区民と



2日には勝部会長(69)で、地元の下内野集落「ゆきちから」の種子1営農推進委員会で取り組む小麦の種子消毒作業などに挑戦。八木澤商店(陸前高田市)のしょうトの上で乾燥させる工程

を一緒に行った。「地域の人がとても温かく迎えてくれ、笑顔もすてき」と下内野の印象を語る森さん。「農作業は大変だが楽しい。良い経験になっていくと思う」と充実感を漂わせ、福祉分野の道と迷いながらも緑のふるさと協力隊参加に関心を寄せていた。

若葉のふるさと協力隊は、緑のふるさと協力隊の短期プログラムとして実施。森さんの体験内容を組んだ西田さんは「農山村でこのようなことをしているのか感じてもらえれば。私自身も『若葉』で一関に来てここに帰ってきたので、緑のふるさと協力隊として来てくれればうれしい」と期待を寄せていた。

下内野地区で小麦種子の消毒作業など農業体験をしている「若葉のふるさと協力隊」の森さん(右)